

情報処理学会東北支部 平成29年度 支部報告会

日時：平成29年6月7日（水） 12:30-14:00

場所：東北大学工学部電子情報システム・応物系 1号館2階 大会議室

住所：〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-05

I. 開会

II. 支部長挨拶

III. 報告

1. 表彰

- (a) 平成28年度 東北支部学生奨励賞の選考結果報告（資料1）
- (b) 平成28年度 東北支部奨励賞の選考結果報告（資料2）
- (c) 第12回 東北支部野口研究奨励賞の選考結果報告（資料3）
- (d) 平成28年度 東北支部学生奨励賞 贈呈
- (e) 平成28年度 東北支部奨励賞 贈呈
- (f) 第12回 東北支部野口研究奨励賞 贈呈

2. 報告事項

- (a) 平成28年度 活動報告について（資料4）
- (b) 平成28年度 決算について（資料5）
- (c) 平成29年度 運営委員について（資料6, 資料7, 資料8）
- (d) 平成29年度 活動計画について（資料9, 資料10）
- (e) 平成29年度 予算について（資料11）
- (f) その他

3. 学会概況報告（資料12, 資料13）

IV. 閉会

平成28年度 情報処理学会東北支部学生奨励賞

(「情報処理学会東北支部学生奨励賞に関する要項」より)

趣旨 東北地方の情報処理分野を教える主要大学と主要高専の卒業生の成績優秀者各1名に対し、「学生奨励賞」を授与し、情報処理分野を学ぶ東北地区の学生が、より一層、情報処理分野の勉学に勤しむように奨励するものである。

対象 表彰の対象者は、次のとおりとする。

- (1) 情報関連の教育・研究活動を行っている学科（以下、情報関連学科）を持つ大学または高専の卒業年度生で、成績優秀な学生。
- (2) 大学にあっては、修士課程への進学予定者であること。高専にあっては、専攻科への進学、他大学への編入学、他大学院の修士課程への進学予定者であること。
- (3) 情報処理学会学生員、もしくは入会を希望しているものであること。
- (4) 原則として、電子情報通信学会東北支部における同奨励賞の候補者は対象外とする。

情報処理関連学科を持つ大学・高専15校に成績優秀者の推薦を依頼したところ、下記14名の推薦があった。選考委員会においてメール審議を行い、推薦のあった14名への学生奨励賞の授与を決定した。

* 高崎 亮	弘前大学 工学部電子情報工学科
中村 悦郎	秋田大学 工学資源学部情報工学科
* 加藤 巧大	秋田県立大学 システム科学技術学部電子情報システム学科
* 菅原 康滉	岩手大学 工学部電気電子・情報システム工学科
* 上田 翔磨	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
* 小関 裕一郎	山形大学 工学部情報科学科
大房 建一郎	東北大学 工学部情報知能システム総合学科
* 相見 伸篤	東北工業大学 工学部知能エレクトロニクス学科
* 佐藤 純	東北学院大学 工学部電気情報工学科
* 園部 達也	仙台高等専門学校 専攻科情報電子システム工学専攻
* 安田 雄飛	会津大学 コンピュータ理工学部コンピュータ理工学科
* 小野 智央	日本大学 工学部情報工学科
* 霜山 翼	福島大学 理工学群共生システム理工学類
* 富樫 亮太	鶴岡工業高等専門学校 制御情報工学科

* の12名については、賞状と副賞を本年3月に各校へ発送し授与済み。

平成 28 年度 情報処理学会東北支部奨励賞

(「情報処理学会東北支部表彰規定」より)

趣旨 (第 3 条) 奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

対象

(第 4 条) 奨励賞を受ける者は、支部主催の電気関係学会東北支部連合大会(以下、支部連合大会と呼ぶ)および研究会に発表した者で、次の各号に該当するものから選考する。

1. 原則として本学会東北支部会員であること。(手続き中のものを含む)
2. 講演の時期において大学の学部卒業後 10 年未満の者 またはこれと同等と認められる者であること。
3. 講演者として登録し、かつ講演を全て行った者であること。
4. 本奨励賞および類似の学会賞を受けたことのない者であること。
5. 対象となる発表は、表彰の時期の前年 4 月から当該年の 3 月までに 行われたものとする。

(第 6 条) 奨励賞は、原則として支部連合大会から 3 編以内、研究会から 2 編以内とする。

平成 28 年 8 月 30, 31 日に開催された平成 28 年度電気関係学会東北支部連合大会から 7 名、平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月に開催された支部研究会(計 7 回)から 6 名の推薦があった。選考委員会により推薦論文の査読を行い、その結果をもとに、平成 29 年 5 月 17 日開催の選考委員会での受賞候補者の選考、平成 29 年 5 月 23 日開催の支部運営委員会での審議を経て、次の 5 名の受賞者を決定した。

支部連合大会

- 加藤 健太郎(東北大学)
“Approximate Computing に基づく脳型 LSI の高精度・省電力・省面積実装技術の一考察”
- 横山 真悟(東北大学)
“エージェント型 IoT システムにおける適応制御機構の設計と実装”
- 藤原 咲子(岩手県立大学)
“タイピングミスを考慮したパスワード生成手法の提案”

支部研究会

- Masatoshi Murakami(岩手大学)
“Implementation of enumerating all edge-constrained triangulations without the general position assumption,” 第 3 回情報処理学会東北支部研究会(岩手大学)
- 小檜山 裕太(会津大学)
“人感センサーアレーに基づく位置と行動の推定に関する考察,” 第 4 回情報処理学会東北支部研究会(会津大学) …………… 支部推薦論文として推薦

第12回 野口研究奨励賞

(「情報処理学会東北支部野口研究奨励賞に関する要項」より)

趣旨 我が国を代表する情報処理分野のパイオニアであり、東北地方の当分野の発展に多大に貢献された野口正一先生（東北支部第7代支部長，本会第18代会長）から寄贈された資金により設立された本賞は，優秀な学術論文を出版した東北支部会員の若手研究者を表彰し，より一層の情報処理分野に関する研究開発を奨励するものである。

対象 表彰の対象者は，次のとおりとする。

- (1) 本学会東北支部会員（正会員または学生会員，手続き中のものを含む）であること。
- (2) 過去5年程度以内において，情報処理分野に関連する学術雑誌・国際会議予稿集に掲載された論文の主要な著者であること。ただし，第一著者であるかどうかは問わない。
- (3) 応募時において35歳以下の若手研究者であること。
- (4) 受賞者以外の共著者は表彰の対象としない。

1件の応募があり，平成29年5月17日開催の選考委員会，平成29年5月23日開催の支部運営委員会での審議を経て，以下の受賞者を決定した

受賞者

長洲 航平（東北大学大学院 情報科学研究科 博士課程前期2年の課程）

対象論文

Kohei Nagasu, Kentaro Sano, Fumiya Kono and Naohito Nakasato, “FPGA-based tsunami simulation: Performance comparison with GPUs, and roofline model for scalability analysis,” *Journal of Parallel and Distributed Computing* (Elsevier), Volume 106, Pages 153–169 (August 2017)（応募時は，出版年月等未定）。

第 12 回(平成 28 年度)東北支部野口研究奨励賞



受賞者

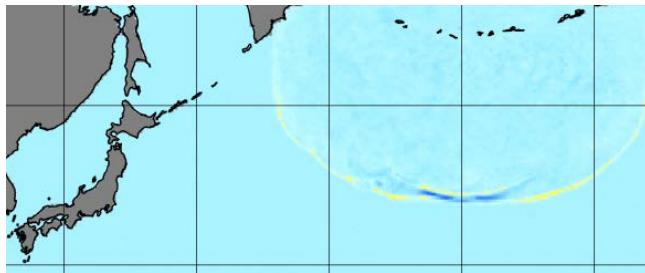
長洲航平 (ながす こうへい)

東北大学 大学院 情報科学研究科

[研究の概要]

津波の規模や到達時間などを正確に予測する高性能シミュレーションが求められている。この様なシミュレーションにしばしば用いられるスーパーコンピュータは、常時運用されている場合が多く、即座に緊急ジョブを実行することが困難である。また、膨大な電力を消費するため、地震などの災害発生後の不安定な電力供給の下では、安定した大規模計算ができない可能性がある。このため、高性能かつ低消費電力である津波シミュレーション専用計算機が必要である。

今回受賞対象となった論文では、近年大規模数値計算の実行に有用な環境が整いつつある FPGA を用いて、専用計算機の開発を行っている。FPGA を利用した津波シミュレーションの例は少なく、専用回路を一から設計する必要があった。そのため、既存の津波計算ソフトウェアを基に、ハードウェア向けの計算アルゴリズムを考案し、これに基づき、シミュレーションの一連の計算を行うパイプラインを設計している。このパイプラインを粗粒度な時空間的並列性に基づいてアレイ状に配置し、アレイのパラメータによって定義される設計空間の探索を行った。その結果、最適設計においては、同一のシミュレーションを GPU によって実行した場合と比較して、1.7 倍の計算性能、7.1 倍の電力性能比を達成し、本研究で提案した津波シミュレーション専用計算機の優位性を示すことができている。また、提案したアーキテクチャの性能モデルを考案し、これによって将来利用可能となるより大規模な FPGA において、更なる性能向上を達成できることを明らかにしている。



[受賞の感想]

この度、野口研究奨励賞を受賞できたことは大変光栄と存じており、情報処理学会東北支部の皆様には深く感謝申し上げます。この様な名誉ある賞を受賞できたのも、佐野健太郎先生、山本悟先生、古澤卓先生の多大なるご指導の賜物であると存じており、深く御礼申し上げます。今後も、情報処理分野のますますの発展のために、励んで参ります。

情報処理学会東北支部 平成28年度 活動報告

1. 支部報告会

日時: 平成28年6月22日(水) 12:30~14:00

会場: 東北大学工学部 電子情報システム・応物系1号館 大会議室

2. 委員会等

2.1. 情報処理学会東北支部 平成27年度 第1回 幹事会

日時: 平成28年4月27日(水) 17:00~18:00

会場: 東北大学電気通信研究所 本館6階 中会議室

議題:

1. 平成28年度支部運営委員改選について
2. 平成27年度支部奨励賞, 支部学生奨励賞, 第11回野口研究奨励賞について
3. 平成27年度活動報告について
4. 平成28年度活動計画について
5. 平成27年度決算について
6. 平成28年度予算について
7. その他

2.2. 情報処理学会東北支部 平成27年度 第1回 運営委員会

日時: 平成28年5月18日(水) 16:00~17:00

会場: 東北大学電気通信研究所 本館6階 中会議室

議題:

報告事項

1. 平成28年度支部役員改選について
2. 支部長会議, 役員検討会報告
3. 支部学生奨励賞の受賞者の報告

審議事項

1. 支部奨励賞の受賞者の決定について
2. 第11回野口研究奨励賞の決定について
3. 平成27年度活動報告について
4. 平成28年度活動計画について
5. 平成27年度決算について
6. 平成28年度予算について

その他

1. 支部報告会のご案内
2. 電気関係学会東北支部連合大会実施計画
3. 研究会・講演会の申込方法

3. 事業計画に基づく事業（行事，表彰等）

3.1. 平成 28 年度電気関係学会東北支部連合大会

日程：平成 28 年 8 月 30 日（火）～31 日（水）

会場：東北工業大学 八木山キャンパス

発表件数：246 件（通常講演），10 件（依頼講演）

参加者数：512 名

特別講演会：（台風接近の影響により中止）

日時 平成 28 年 8 月 30 日（火）15:30～17:00

会場 東北工業大学 八木山キャンパス 937 教室

講師 岩崎 俊一 氏（東北工業大学名誉理事長）

演題 垂直磁気記録とビッグデータ時代

3.2. 支部研究会（平成 28 年度は 7 回開催）

- 第 1 回情報処理学会東北支部研究会

（共催：秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻，大学院理工学研究科
人間情報工学コース，理工学部人間情報工学コース）

日程：平成 28 年 11 月 30 日（水）～12 月 1 日（木）

会場：放送大学秋田学習センター 講義室（秋田大学内）

発表件数：20 件

参加者数：93 名

- 第 2 回情報処理学会東北支部研究会

日程：平成 28 年 12 月 9 日（金）

会場：八戸工業大学 システム情報工学専門棟

発表件数：15 件

参加者数：31 名

- 第 3 回情報処理学会東北支部研究会

（共催：岩手大学理工学部システム創成工学科）

日程：平成 28 年 12 月 17 日（土）

会場：岩手大学理工学部 4 号館

発表件数：18 件

参加者数：41 名

- 第 4 回情報処理学会東北支部研究会

日程：平成 29 年 1 月 29 日（日）

会場：会津大学 研究棟

発表件数：9 件

参加者数：18 名

- 第 5 回情報処理学会東北支部研究会

日程：平成 29 年 2 月 10 日（金）

会場：東北学院大学 泉キャンパス 2 号館

発表件数: 15 件

参加者数: 65 名

- 第 6 回情報処理学会東北支部研究会

(共催: 弘前大学理工学研究科電子情報工学科)

日程: 平成 29 年 2 月 20 日 (月)

会場: 弘前大学理工学部 第 2 号館

発表件数: 18 件

参加者数: 63 名

- 第 7 回情報処理学会東北支部研究会

日程: 平成 29 年 3 月 7 日 (火)

会場: 山形大学工学部 4 号館

発表件数: 20 件

参加者数: 39 名

3.3. 研究講演会 (平成 28 年度は 4 回開催)

- 情報処理学会東北支部特別講演会 (第 375 回研究講演会)

日程: 平成 28 年 6 月 22 日 (水)

会場: 東北大学工学部 電子情報システム・応物系 101 大講義室

講師: 大畑 純 氏 (NEC ソリューションイノベータ (株) 東北支社 主席プロフェッショナル/アドバンスドテクノロジスト)

演題: IoT 時代を支える ICT 基盤～これまでと今後のクラウド

参加者数: 200 名

- 第 376 回情報処理学会東北支部研究講演会

日程: 平成 28 年 10 月 26 日 (水)

会場: 会津大学 研究棟 中講義室 M11

講師: 岩田 泰士 氏 (新日鉄住金ソリューションズ)

演題: データサイエンティストの思考法

参加者数: 25 名

- 第 377 回情報処理学会東北支部研究講演会

(共催: 弘前大学理工学部電子情報工学科)

日程: 平成 28 年 11 月 30 日 (水)

会場: 弘前大学理工学部 1 号館 第 10 番講義室

講師: 中村 維男 先生 (慶應義塾大学/東北大名誉教授)

演題: ある新奇なメモリは計算機科学を変えるであろう

参加者数: 65 名

- 第 378 回情報処理学会東北支部研究講演会

(共催: 秋田大学大学院理工学研究科人間情報工学コース/理工学部人間情報工学コース)

日程: 平成 28 年 12 月 8 日 (木)

会場: 秋田大学理工学部 5 号館 101 講義室

講師: 千葉 大作 氏 (株式会社アルファシステムズ 製品販売本部 販売部 部長)
演題: ソフトウェア開発の現状と未来 ~都市と地方, 国内と海外, 人間と機械~
参加者数: 72 名

3.4. 表彰

- 3.4.1. 支部学生奨励賞
14 名を表彰. (資料 1)
- 3.4.2. 支部奨励賞
5 名を表彰. (資料 2)
- 3.4.3. 野口研究奨励賞
1 名を表彰. (資料 3)

4. その他特記事項等

4.1. 後援・協賛

- 第 16 回夏休み子ども科学キャンパス, 第 11 回秋休み子ども科学キャンパス
日時: 平成 28 年 7 月 27 日 (水) ~28 日 (木), 10 月 12 日 (水) ~13 日 (木)
場所: 東北大学大学院工学研究科 創造工学センター
主催: 東北大学, 仙台市教育委員会
- 第 23 回たのしいサイエンス・サマースクール
日時: 平成 28 年 8 月 2 日 (火) ~4 日 (木)
場所: 東北大学大学院工学研究科 創造工学センター「発明工房」
主催: たのしい科学企画委員会
- 東北大学電気通信研究所一般公開 2016
日時: 平成 28 年 10 月 8 日 (土) ~9 日 (日)
場所: 東北大学 電気通信研究所
主催: 東北大学 電気通信研究所
- 平成 29 年東北地区若手研究者研究発表会
日時: 平成 29 年 3 月 4 日 (土)
場所: 東北学院大学 多賀城キャンパス
主催: 東北地区若手研究者研究発表会
「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」

4.2. その他

- 電気・情報関係学会北海道支部連合大会 企画セッションパネル「支部連合大会の活性化」への参加
日時: 平成 28 年 11 月 5 日 (土) 14:45~16:15
場所: 北海学園大学 山鼻キャンパス
パネル参加者: 北海道支部・小笠原悟司先生, 東北支部・菅沼支部長, 東海支部・伊藤和晃先生, 中国支部・金田和文先生.

情報処理学会東北支部 平成28年度決算

収入	予算	決算	決算－予算
本部からの繰入相当額	1,900,000	1,814,000	-86,000
支部交付金相当額	1,900,000	1,814,000	-86,000
記念事業支援金相当額	0	0	0
ジュニア会員向けイベント補助			0
事業収入	3,750,050	3,060,240	-689,810
支部大会	0	0	0
講演会	0	0	0
研究会	0	0	0
連合大会	3,750,050	3,060,240	-689,810
補助金収入	50,000	50,000	0
野口正一氏からの補助・助成	50,000	50,000	0
雑収入(利息等)	50	39,016	38,966
当期収入合計(A)	5,700,100	4,963,256	-736,844

支出	予算	決算	決算－予算
事業費	5,220,050	4,127,508	-1,092,542
支部大会	330,000	254,830	-75,170
講演会	320,000	64,128	-255,872
研究会	360,000	318,297	-41,703
連合大会(分担金)	310,000	310,000	0
連合大会(運営費)	3,750,050	3,060,253	-689,797
セミナー支援	150,000	120,000	-30,000
管理費	480,050	171,335	-308,715
評議員会・幹事会	140,000	59,480	-80,520
総会	90,000	111,855	21,855
事務委託会社への委託費	240,000	0	-240,000
雑費	10,050	0	-10,050
予備費等(任意)	0	0	0
当期支出合計(C)	5,700,100	4,298,843	-1,401,257

当期収支差額(A-C)	0	664,413	664,413
-------------	---	---------	---------

平成28年度 情報処理学会東北支部 運営委員 名簿

2016.4.1 現在

役職		氏名	前任者	所属	備考
支部長	新	菅沼 拓夫	大堀 淳	東北大学サイバーサイエンスセンター	
庶務幹事		島崎 聡	伊藤 輝樹	富士通(株)東北支社	
	新	阿部 亨	北形 元	東北大学サイバーサイエンスセンター	
会計幹事	新	瀬沼 宏之	再任	日本電気 (株)東北支社	
		江川 隆輔	青木 輝勝	東北大学サイバーサイエンスセンター	
広報幹事		手塚 大	庄司 貞雄	(株)日立ソリューションズ東日本	
	新	夏井 雅典	鈴木 健一	東北大学電気通信研究所	
支部委員	新	大堀 淳	小林 広明	東北大学電気通信研究所	前支部長枠
	新	北形 元	滝沢 寛之	東北大学電気通信研究所	前庶務幹事枠
		青木 輝勝	佐野健太郎	東北大学未来科学技術共同研究センター	前会計幹事枠
		関口 理恵	再任	NECソリューションイノベータ株式会社	
	新	伊藤 政彦	再任	(株)NTTデータ東北	
	新	長瀬 智行	再任	弘前大学大学院理工学研究科電子情報システム工学専攻	
		清水 能理	山口 広行	八戸工業大学 工学部 システム情報工学科	
	新	景山 陽一	再任	秋田大学大学院理工学研究科情報工学専攻	
	新	猿田 和樹	再任	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科	
		木村 彰男	平山 貴司	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科	
	新	布川 博士	再任	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	
		小坂 哲夫	横山 晶一	山形大学大学院理工学研究科	
	新	鈴木 健一	再任	東北工業大学工学部情報通信工学科	
	新	岩谷 幸雄	再任	東北学院大学工学部	
		速水 健一	再任	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻	
	新	奥山 祐市	再任	会津大学コンピュータ理工学部	
	新	上田 清志	大山 勝徳	日本大学工学部情報工学科	H28新任
新	萩生田 善之	佐藤 恭史	(株)富士通システムズ・イースト 東北支社	H28新任	
新	富樫 敦	再任	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科		

平成29年度 情報処理学会東北支部 運営委員 名簿

2017.4.1 現在

役職		氏名	前任者	所属	備考
支部長		菅沼 拓夫	大堀 淳	東北大学サイバーサイエンスセンター	
庶務幹事	新	島崎 聡	再任	富士通(株)東北支社	
		阿部 亨	北形 元	東北大学サイバーサイエンスセンター	
会計幹事		瀬沼 宏之	再任	日本電気 (株)東北支社	
	新	吉仲 亮	江川 隆輔	東北大学情報科学研究科	
広報幹事	新	手塚 大	再任	(株)日立ソリューションズ東日本	
		夏井 雅典	鈴木 健一	東北大学電気通信研究所	
支部委員		大堀 淳	小林 広明	東北大学電気通信研究所	前支部長枠
		北形 元	滝沢 寛之	東北大学電気通信研究所	前庶務幹事枠
	新	江川 隆輔	青木 輝勝	東北大学サイバーサイエンスセンター	前会計幹事枠
	新	関口 理恵	再任	NECソリューションイノベータ (株)	
		伊藤 政彦	再任	(株) NTTデータ東北	
		長瀬 智行	再任	弘前大学大学院理工学研究科	
	新	清水 能理	再任	八戸工業大学 工学部 システム情報工学科	
		景山 陽一	再任	秋田大学大学院理工学研究科情報工学専攻	
		猿田 和樹	再任	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科	
	新	木村 彰男	再任	岩手大学理工学部システム創成工学科	
		布川 博士	再任	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	
	新	小坂 哲夫	再任	山形大学大学院理工学研究科	
		鈴木 健一	再任	東北工業大学工学部情報通信工学科	
		岩谷 幸雄	再任	東北学院大学工学部	
	新	速水 健一	再任	仙台高等専門学校専攻科情報電子システム工学専攻	
		奥山 祐市	再任	会津大学コンピュータ理工学部	
	上田 清志	大山 勝徳	日本大学工学部情報工学科		
	萩生田 善之	佐藤 恭史	(株)富士通システムズ・イースト 東北支社		
	富樫 敦	再任	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科		

情報処理学会東北支部 平成29年度 活動計画

1. 支部報告会

日時: 平成29年6月7日(水) 12:30~14:00

会場: 東北大学工学部 電子情報システム・応物系1号館 大会議室

2. 委員会等

- 幹事会: 1~2回程度開催予定
- 運営委員会: 1~2回程度開催予定

3. 各種事業(行事, 表彰等)

- 平成29年度電気関係学会東北支部連合大会
日程: 平成29年8月24日(木)~25日(金)
会場: 弘前大学 文京町地区キャンパス
- 支部研究会
8回程度開催予定
- 研究講演会
6回程度開催予定
- 表彰
 - － 支部奨励賞
5名程度表彰予定
 - － 支部学生奨励賞
15名程度表彰予定
 - － 野口研究奨励賞
1名を表彰予定

4. 後援・協賛

- 夏休み子ども科学キャンパス, 秋休み子ども科学キャンパス
- たのしいサイエンス・サマースクール
- 東北大学電気通信研究所一般公開
- 中学生のためのコンピュータ・グラフィクス講座
- 東北地区若手研究者研究発表会

5. 広報活動

- 学都「仙台・宮城」サイエンス・デイへの展示参加

ホーム

サイエンスデイ

出展プログラム

サイエンスデイAWARD

出展案内・出展申込

会場ア

HOME > サイエンスデイ > サイエンスデイ2017

サイエンスデイ2017

開催趣旨

近年、我が国の科学技術研究および産業競争力の強化を実現する「科学技術創造立国」の基盤を揺るがす深刻な問題として、子どもたちの「理科離れ」が叫ばれています。「理科離れ」は単に「個人的に理科が嫌い」という問題ではなく、理科を学ぶ過程で本来養われるはずの「知的好奇心」や「論理的思考力」等の低下を意味しています。その結果として、文理問わず高等教育を理解できない学生が増大し、大学教育の質の維持が著しく困難に陥っているというかたちで問題は顕在化しており、もはや「理科離れ」問題は、国民全体による知の問題、すなわち社会的リスクであると捉えられています。

これらの社会的背景に、社会の細分化・複雑化に伴い、個々は専門家に任せ、表面だけを利用するブラックボックス化が進んだことがあります。その結果、わたしたちは効率性と引き換えに、本来そこにあるはずの自己と対象との関係性を実感することが困難な状況に陥っています。しかしながら本来、自己と対象との関係性の集積が、すなわち社会です。この自己と対象との関係性が見えない危機こそが、個人・地域社会・国レベルでの問題の本質的な原因と natural science では捉え、そこから解決策を見出ししていきます。

自己と対象との関係性を実感しやすい範囲として、natural science は社会の中でも特に“地域”に着目します。自分が社会に与えている影響と自分が社会から受けている影響を実感できることで、人は自らの社会的存在意義を自覚し、主体的に活動することができます。このようなひとり一人の内発的モチベーションによる主体的なアクティビティが、地域をつくり、そして社会全体をつくるドライビングフォースとなります。つまり“地域”こそが、社会をつくる基盤であると同時に、社会全体をつくる原動力として、大きな可能性を秘めているのです。

そもそも「科学」の本質は観察からはじまります。対象に直接触れ、自分の目で見て、自己と対象との関係性を五感で感じることにし、知的好奇心・論理的思考力が養われることはありません。「科学」と言うと「科学は専門家だけが知っていればいい」と自己と科学との関係性を認識しようとする風潮や、または成果ばかりが目されがちですが、そこに至るまでのプロセスにこそ、知的好奇心や論理的思考力をはじめとする、科学的なものの見方・考え方、すなわち自己と対象との関係性を構築する姿勢が隠されています。

natural science では、知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造にむけて、「科学」を切り口に、自己と対象との関係性の可視化・再構築の場として機能することを「科学で地域づくり」と位置づけ、日々の科学教育プログラムの開発・実施のほか、大学・研究機関や企業、行政・教育機関等と連携し、2007年から毎年、体験型科学イベント『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を開催しています。『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は、「科学って、そもそもなんだろう？」をテーマに、製品や成果等の“結果”だけでなく、科学や技術の“プロセス”を五感で感じられる場づくりを通じて、子どもから大人まで、各人各様の感じ方から自己と対象との関係性を可視化・再構築する場として機能することを目指すものです。

そもそも人間は生まれながらにして知ることを欲する存在です。そして生まれた創造物が共有されることは喜びです。この認識に立つ時、科学は人の本性に根ざすものとなり万人のものとなるでしょう。こうした共感の輪を生み出す循環こそが、人間の本来持つ内発的モチベーションがさらに発揮され、次にその次に登場する科学や技術が継続的に生み出され、わたしたちの心豊かな社会が達成されていく土壌となるはずです。

知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資することを願い、今年も『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を開催いたします。皆さまのご理解・ご協力・ご参加を、心よりお待ち申し上げます。

特定非営利活動法人 natural science

サイエンスデイ2017

- > 開催主旨
- > 企画概要
- > 開催概要
- > 応援メッセージ
- > 2017出展プログラム
- > サイエンスデイAWARD 2
- > 出展案内・出展申込
- 第2回「サイエンスデイ・ザ・イヤー2017」に「文部科学大臣賞」が加わった。

アーカイブ

- > 2017
- > 2016
- > 2015
- > 2014
- > 2013
- > 2012
- > 2011
- > 2010
- > 2009
- > 2008
- > 2007

企画概要

?科学のプロセスを五感で感じる・科学で地域が見える?

社会の成熟化に伴い、科学や技術はブラックボックス化し、わたしたちは便利さと引き換えに、科学や技術の“プロセス”を五感で感じる機会を失ってきました。しかしながら、科学や技術をもたらす“結果”のみを一方向的に享受するだけの姿勢では、科学離れや科学リテラシー不足などの社会的リスクを回避することはできません。

一方で「仙台・宮城」は、「科学」という切り口で見ると、大学・研究機関、民間企業や行政・教育機関等が密集し、研究者や技術者等が日々、研究・開発等の活動を行う、わたしたち市民の生活と科学・技術が隣り合わせで存在する、古くから「学都」と呼ばれる地域です。



五色のサイエンスの文字は、「五感で感じること」と「科学の多面性」を表しています。また黒箱は、「ブラックボックスを開けること」と「多様な主体が一堂に集う場」を表しています。

この地域の特性を活かし、「科学って、そもそもなんだろう?」をテーマに、大人も子どもも、普段科学に触れている人も触れていない人も、科学や技術の背景にある“人”や“プロセス”を自らの五感で感じられる場として、『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』を毎年開催します。

『学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ』は、「科学」を切り口に地域を再発見し、関係性再構築の場として機能することで、知的好奇心がもたらす心豊かな社会の創造に資することを目指します。

ステップと期待する効果

ステップ① 科学の“プロセス”を体験

各出展団体の現場の“人”が「おもしろい」と思う“プロセス”を形にした体験型プログラムを通じて、普段なかなか実感できない“プロセス”を体感することで、子どもから大人まで各人各様の感じ方から自然な形で興味・関心が喚起される。



ステップ② 研究者や技術者等の現場の“人”との対話

喚起された興味・関心は各人各様であり、それぞれの人が「知りたい」と思うところから、研究者や技術者等の現場の“人”との対話を通じて、各自が興味・関心を深めることができる。



ステップ③ 年間を通じた科学イベントへの参加

本企画の“見本市”的な特徴を活かし、「学都仙台・宮城サイエンスコミュニティ」会員登録により、各出展団体が開催する一般むけ科学イベント（一般公開や市民むけ講座など）情報を市民へ直接的・継続的に配信できるシステムをつくることで、年間を通じて市民が科学に触れられる機会を増やす。

ステップ④ 生活の中で関連事項と遭遇

本企画は地域資源で構成されているため、本企画終了後も、市民が普段の生活の中で関連事項と遭遇する機会が多い。これまで何気なく利用していた製品や成果等の“結果”を見ても、本企画をきっかけに“プロセス”があることを想像でき、興味・関心が継続し、身近に感じられる効果が期待される。



ステップ⑤ 毎年恒例イベントとして参加

毎年開催により認知度は高まりつつあるが、今後も地道に連携機関を増やし、地域の毎年恒例イベントとして定着化を図ることで、科学・技術に興味・関心のある人から、普段は科学イベントにあまり参加しない人まで、幅広い層が科学・技術を楽しむことができる場を地域に創出していく。



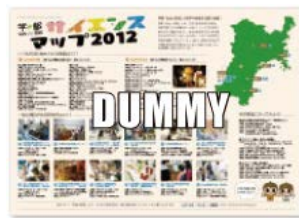
ステップ⑥ お互いに応援し合うコミュニティへ

各主体の取組みについて、各主体や市民がお互いに応援し合ったり、表彰し合えるしくみ（サイエンスデイAWARD等）をつくることで、相互理解を深めながら誰もが主体的に科学に参加できる持続可能な『学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ』の構築を目指していく。

今年の新しいポイント

☑ 既存の科学コミュニケーション活動の可視化・効果最大化

- 「学都仙台・宮城サイエンスマップ」に科学イベント情報掲載（約230,000部配布）
『学都「仙台・宮城」サイエンスマップ』（県内の全公立小・中学校、出展高校等を通じ、全児童・生徒分約23万部、6月下旬～配布予定）に科学イベント情報を掲載できます。



▲学都「仙台・宮城」サイエンスマップ

- 「学都仙台・宮城サイエンスマップ～光編～」を当日ガイドブック付録として掲載
地域の研究・開発内容を、光の性質と関連させて、電磁波の波長ごとに紹介します。

- 科学イベント情報告知システムを利用できます（コミュニティ会員：約3,500人）
学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ市民会員（約3,500人：2015年3月現在）に科学イベント情報を発信できるWEBシステムを利用できます（無料）。



詳細はこちら >> 学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ <http://science-community.jp/>

開催概要

名 称	①学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2017 ②サイエンスデイAWARD2017表彰式・交流パーティー
日 時	①2017年7月16日（日） 9:00～16:00 ②2017年7月21日（金） 予定
会 場	①東北大学川内北キャンパス 講義棟（宮城県仙台市青葉区川内41） ②調整中

**会場となる東北大学内に、駐車場はございません。
路上駐車場及び周辺施設への駐車は、固くお断りいたします。
ご来場の際には、公共交通機関をご利用ください。**

アクセス [仙台駅からのアクセス](#)

主 催 特定非営利活動法人 natural science（2007年6月設立）

共 催 準備中

協 賛 準備中

後 援 準備中

入 場 料 無料

来場対象 子どもからおとなまでどなたでも

来場見込 約10,000人（2016年実績：9,612人）

出展費用	無料（ただし出展に関わるその他の費用はご負担下さい）
出展募集	講座プログラム型：約40プログラム、体験ブース型：約60ブース
お問合せ	特定非営利活動法人 natural science 事務局 大草芳江 〒980-0023 仙台市青葉区北目町4-7 HSGビル4階 Five Bridge 内 Tel.022-721-2035 URL http://www.natural-science.or.jp/ お問合せフォームはこちら
備 考	本イベントは 学都「仙台・宮城」サイエンスコミュニティ （JST科学技術コミュニケーション推進事業「ネットワーク形成地域型」平成25年度～平成27年度採択事業、提案期間：宮城県、運営機関：特定非営利活動法人 natural science）の土壌づくりの一環として開催されています。

応援メッセージ

掲載順序は到着順です

宮城県知事 村井 嘉浩 さん

『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ2017』を開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

私たちの生活は、科学技術の進歩により日々便利になっています。しかし、私たちは、身の回りのモノや現象を当たり前存在するものとして、その仕組みを意識せずに利用してしまいがちです。それら普段意識されないプロセスを体感しようというテーマで始まった

『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ』は、県内の大学・研究機関、関連企業の皆様の御協力の下、子どもから大人までが、それらのプロセスを楽しみながら五感で体験できるなど、科学技術を身近に感じられる絶好の機会として定着してきました。引き続き、多くの方々の科学や技術への理解を大いに深める場となることを期待しております。

本県は、震災からの復興に向け、県民一丸となって取り組んでいるところですが、このイベントに多くの企業様や県民の皆様が参加され、宮城、東北を元気にするイベントになることを心から期待します。



仙台市長 奥山 恵美子 さん

今回11回目を迎える『学都「仙台・宮城」サイエンスデイ2017』が開催されることを心よりお喜び申し上げます。

普段、当たり前のように感じている自然現象や科学技術について、その背景にあるしくみや原理を体験しながら学ぶことができるこのイベントが、すっかり定着してきましたことを大変うれしく思います。

大学・研究機関、関連企業の方々からご協力をいただいて開催されるこのイベントに子どもから大人まで多くの市民の皆様が参加され、学ぶ楽しさを五感で体感し、一層、科学に関心をもっていたいただければと思います。

多様な教育、研究機関等が集まる学都仙台ならではの取り組みであるこのイベントをきっかけに、科学に興味をもつ方が増え、今後の学都仙台を担う人材が育っていくことを期待しております。



東北大学 情報科学研究科 教授・東北大学 副学長 青木孝文さん

実は、私は子供のころから現在に至るまで、サイエンス・フィクション（SF）、特に、ハードSFが好きです。ハードSFというのは、科学の知識をテーマの中心にしたSFです。遠い未来のテクノロジーは、私たちにとって、そもそも「ブラックボックス」ですね。そのブラックボックスの中身を想像してみることが好きでした。

最近のガンダムにも、「軌道エレベーター」など、まだ人類が実現できていないアイデアが出てきます。そういうのを見るにつけ、子供のころにA.C.クラークの「楽園の泉」などを読んでいた私としては、「そんなの知ってるもんね」、と思ったりするわけです。大人になってからは、「軌道エレベーターみたいな巨大構造物を作るには、材料科学のブレークスルーが必要だな」とか、「いやいやその前に経済的な課題の方が大きいな」などと、ちょっと夢がなくなったりしながらも、想像す



情報処理学会東北支部 平成29年度予算

収入	平成28年度		平成29年度
	予算	決算	予算
本部からの繰入相当額	1,900,000	1,814,000	1,987,000
支部交付金相当額	1,900,000	1,814,000	1,987,000
記念事業支援金相当額	0	0	0
ジュニア会員向けイベント補助			
事業収入	3,750,050	3,060,240	0
支部大会	0	0	0
講演会	0	0	0
研究会	0	0	0
連合大会	3,750,050	3,060,240	0
補助金収入	50,000	50,000	50,000
野口正一氏からの補助・助成	50,000	50,000	50,000
雑収入(利息等)	50	39,016	20
当期収入合計(A)	5,700,100	4,963,256	2,037,020

支出	平成28年度		平成29年度
	予算	決算	予算
事業費	5,220,050	4,127,508	1,520,000
支部大会	330,000	254,830	350,000
講演会	320,000	64,128	350,000
研究会	360,000	318,297	360,000
連合大会(分担金)	310,000	310,000	310,000
連合大会(運営費)	3,750,050	3,060,253	0
セミナー支援	150,000	120,000	150,000
管理費	480,050	171,335	517,020
評議員会・幹事会	140,000	59,480	170,000
総会	90,000	111,855	90,000
事務委託会社への委託費	240,000	0	240,000
雑費	10,050	0	17,020
予備費等(任意)	0	0	0
当期支出合計(C)	5,700,100	4,298,843	2,037,020

当期収支差額(A-C)	0	664,413	0
-------------	---	---------	---